

つながる・ひろがる交流会～藤が丘学区～

日時：令和 3 年 10 月 25 日(月)

午前 9 時 30 分～11 時 00 分

場所：名東区役所 講堂

テーマ 「元気で和やかに集う！ 藤が丘なごやかクラブ」

1 概要

(1) 藤が丘なごやかクラブ連合会について

藤が丘なごやかクラブ連合会は昭和 46 年に「藤栄第一クラブ」として設立し、その後平成 8 年以降は藤栄第一、第二、第三クラブの 3 つで構成されている。

藤が丘学区は 13 の自治会で構成されており、自治会ごとに 3 つのクラブに分けられている。

会員数は令和 2 年以降、コロナ禍の影響により減少しており、令和 3 年現在で 204 人となっている。平均年齢は令和元年現在、79.85 歳と 80 歳を少し下回っている。

(2) スケジュールについて

年間スケジュールは、令和 3 年度の大半の行事がコロナにより中止となっているが、今後開催予定の行事は、1 月に健康づくり講演会、2 月に藤が丘なごやかクラブ連合会総会、3 月に高齢者福祉大会と趣味の作品展となっている。

(3) 今後の課題等

会員の退会防止のためにお茶やコーヒー券などの参加謝礼や参加費の補助をしている。また、魅力ある行事の提案をしようと考えているが、なかなか良い案は出てこない。活動の参加を促すために、道で会員に会った際は「今度の行事に参加しない？」などの声掛けを行っていくことが必要である。

会員の募集のために、中日新聞の「マイタイム」という広報に募集案内を掲載したり、「広報藤が丘」に行事の案内等を毎月掲載してもらっている。

民生委員とタイアップをして、訪問の際に申込用紙を配ってもらい会員の募集をしている。多いときは 10 人以上の方に入会していただくことができた。また、対象になる方が学区内に引っ越ししてきた際は、自治会長があいさつに行った際に入会していただきということをお願いしてもらっている。

あまり知られていない、クラブ会員の 20% 以下であれば、60 歳以下の方でも入会できるということをアピールして、60 歳になっていない方も勧誘している。

他にも活動費不足や、後継者不足という問題がある。

2 意見交換の主なやりとり

<質疑応答・意見・感想>

- 私たちの学区では会員が減っており、60 歳以上の方を勧誘しているが、なかなか参加してもらえないため、非常に悩んでいる。
- 今回の資料は令和 3 年度のデータと令和 1・2 年のデータが混在しており、もう少し年度を目立つように記載していただけたらもっと良い資料になったと思う。
- なごやかクラブの維持拡大などはどこの学区でもある話なので、もう少し問題や課題を突き詰めて少しでも解決へと繋がっていく話が今後できたら良いと思う。
- 私たちのクラブでも消滅を防ぐために、今回の発表を参考に少しの活動でも続けていきたいと思う。

3 まとめ

(1) コミュニティサポーター

9 月 15 日（水）の清掃活動の際に見学に伺わせてもらった。テキパキと作業をされていて、「○○さんこっちお願い」「こっちに持ってきて」など普段から仲の良さを伺うことができる会話が飛び交っており、とても雰囲気がよかった。

なごやかクラブなど高齢者が集まる会では、会員をどうやって集めたら良いかという話をとてもよく耳にした。それに対しては発表の中で出てきた民生委員とのタイアップというのは非常に良いアイデアだと思った。なごやかクラブの会員になる条件が概ね 60 歳以上だが、会員の 20% 以下なら 60 歳以下の方でも会員になれるということで、自宅訪問の際に高齢者の家族の方へ「あなたも入りませんか」とまだ 60 歳以上ではない方にも勧誘することで、いつかその年齢になるときのきっかけづくりになる。

今はなごやかクラブに入会する年齢に達していない方や、あまりピンと来ていない世代の方にも自分事として考えられるようなとても良い事例であり、いろいろな方に聞いてもらいたい。

(2) 藤が丘学区連絡協議会会長

ここ 2 年間はコロナ禍で活動が基本的に休止したような状態であり、一番大きいのは各自治会の皆さんとのコミュニケーションが減ったことである。その影響もあり、なごやかクラブの会員が減っていると考えている。子ども会や女性会も同じようである。

自治会の活動も補助金を出しているからといって強制してやってもらうことではないので、ある程度は大目に見て、やれる範囲でやっていかないといけない。

(3) 区長

会員減少の課題を含めてたくさんの課題があり、即解決につながる施策をうつことが難しいことも事実であり、今日明日で画期的な解決策が出て、解決することはない。

しかし、こういった意見交換を重ねながら活動を潰さずに積み重ねて継続することで、地域とのつながりを持ちたいという人が出てきて、また人数が増えていく可能性もあるので、今後も続けて少しずつでも良くしていきたいと思う。